

全国評議会での決定事項

1月18日(土)に行われた全国評議会での決定事項として次のアクションプランが決まりました。

① ガネーシャ(歓喜天)を祀る寺院やその他の寺院、土地神様を祀る神社、あるいは山や海岸などの自然の中で、世界平和を祈願し、ヴェーダチャンティング(納経)を行います。宗教は多くても、神は一つであり、自然もまた神の顕れです。私たちの祈りはサイへ届きます。

そのプロセスにおいて各自の思いと言葉と行動の一体性、オーガニゼーションの一体性、人類の一体性、自然との一体性を育みます。また神への思いに集中することにより純粋性にも導かれるでしょう。

- ※ 取り組みに際しての手引きが作成されますので、注意点などは手引書をご参考ください。
- ※ この取り組みは他団体との共同活動ではありません。
- ※ この取り組みは特定の個人や特定の団体の要望を満たすために行うものではありません。

② ヴェーダを生きるという観点から、「決して誰をも、何をも傷つけない」に取り組みます。

ヴェーダはチャンティング自体に大きな力があるといわれています。しかし同時に、ババ様の御教えそのものであるヴェーダの叡智は、「すべてを愛し、すべてに奉仕する」「いつも助け、決して傷つけない」というババ様の二大格言に集約されています。

つまり、ヴェーダをチャンティングすることは大切ですが、その叡智を私たちの日常の暮らしで実践しなければ何の意味もないこととなります。その中でも「決して誰をも、そして何をも傷つけない」ことはすべての人が目指すべき最も大切なアヒムサ(非暴力)の生き方であり、人間的五大価値に従った生き方だといえます。

このアクションプランが真の意味において成功するためには、神への思い、神への愛、神への帰依心が何より大切です。

それがなければ、ヴェーダチャンティングはテープレコーダーになるでしょう。
バジャンは単なる歌になるでしょう。奉仕は自己満足のための活動になるでしょう。
スタディサークルは、自己主張の場になるでしょう。
神への愛がなければ、どんな靈性修行も「百害あって一利なし」になってしまいます。

寺院、神社、自然のなかでの「ヴェーダチャンティング」と「決して誰をも、何をも傷つけない」の実践はカリユガという暗黒の時代に一条の光りとなりえるものであり、私たちが、ババ様の愛の道具となれる千載一遇の機会になると思われます。